

短 報

シマサクラガンピ (山中二男)

Tsugiwo YAMANAKA: Notes on *Diplomorpha pauciflora* var. *yakusimensis*

前報 (植研 68: 124-126, 1993) でくわしく述べたように、四国にあるサクラガンピの類は、変異が多い。そのため、いちおう断定を避けたが、サクラガンピと考えるより、シマサクラガンピと見なすのが妥当のようである。ただ、サクラガンピとの違いは、やはり種として区別するほどのものではないと思う。

したがってここでは、以前は九州だけに知られていたシマサクラガンピが、四国の徳島県と高知県にもあり、あわせてそれをサクラガンピの変種とする見解を、あらためて明らかにしておく。

なお、ガンピ、サクラガンピなどは、*Wikstroemia* に入れられることが多いが、液果で萼筒が裂けて落ちる常緑のアオガンピ類とは異なり、乾果が多くは宿存する萼筒に包まれる落葉性の木である。その他の形質の違いも考慮すると、ガンピ属は *Diplomorpha* とするのが適切と思うので、それにしたがってシマザクラガンピの学名を変更す

る。ここで取り上げなかった異名は、原 寛 1954: 日本種子植物集覧第三冊 235 を、その他の文献は前報 (山中 1993) を参照されたい。

この報文を書くため、ご指示くださった山崎敬博士にあつく感謝する。

Diplomorpha pauciflora (Franch. et Savat.) Nakai var. *yakusimensis* (Makino) Yamanaka, comb. nov.

Wikstroemia pauciflora Franch. et Savat. var. *yakusimensis* Makino in Bot. Mag. Tokyo 24: 52 (1910)

Diplomorpha sikokumontana Akasawa in Bull. Kochi Wom. Univ. Nat. Sci. 25: 4 (1977), syn. nov.

Distr. Kyushu and Shikoku (Pref. Tokushima and Pref. Kochi)

(高知市 [redacted])

追 悼

亘理俊次先生を偲ぶ

Professor Dr. Shunji WATARI 1906-1993

本誌ともご縁の深かった亘理俊次先生が突然お亡くなりになったとの知らせが、1993年7月17日の早朝にご遺族から入った。先生は1906年6月10日のお生まれであるから、87才であった。平均寿命を越えたとはいえ、近いうちに写真を主とした植物形態学の本を出版しようと準備をなさるなど、まだまだ後輩たちのためにご活躍ただけそうなお様子を知っていた者としては、驚きに打たれた。筆者らは、1960年代に東大理学部植物学教室で先生の門下生となって以来、公私ともに一方ならぬお世話になって来たので、ここに先生の追悼文を書かせていただきたい。

先生は1932年東大理学部ご卒業ののち、副手から助手、講師、助教授を経て、1967年に教授として定年を迎えられるまで東大理学部植物学教室に勤務され、その後は、前年から併任となっていた千葉大学で、1972年まで教授として勤務された。その間の業績は多岐にわたるが、初期にはマメ科、ユキノシタ科、カエデ科の葉柄の解剖がある。並はずれた器用さをもってはじめて可能と思われる労作で、半世紀以上を隔てて、なお引用されている。その後は、第三紀の珪化木など化石木材を主とする木材解剖学が中心となり、日本各地から得られた石化化石を次々と研究され、多くの新種を記載された。先生の研究生活の主要な時期は戦中戦後の混乱期であったため、今日では想